

# 定期健康診断受診率が算出不能から100%に向上した ある企業における22年間の改善要因と健康診断成績等の調査

主任研究員 千葉産業保健推進センター相談員 諏訪園 靖  
共同研究者 千葉県医師会産業保健担当理事 岡 進  
千葉産業保健推進センター所長 能川浩二  
千葉大学大学院環境労働衛生学 講師 上谷実礼  
千葉大学大学院環境労働衛生学 助教 能川和浩

## 目的

22年間の産業保健活動により定期健康診断の全員受診と健康状況の改善を達成した企業についての活動を分析し産業保健活動推進の要因を明らかにすること。

## 調査対象会社の概要

事業内容は一般貨物自動車運送業、特別詰め合わせ貨物運送業、倉庫業、損害保険代理業、請負・人材派遣事業、建設事業、タクシー事業、不動産事業等。従業員数は約1,200人。産業保健上の特徴は多業種、多種類の作業、分散事業場、不規則勤務、交代制勤務。産業保健活動

初期(1989-1994):産業医の選任、事務体制の整備、診察室の整備、会社幹部への産業医活動の認知。

中期:(1995-2001):安全衛生委員会の設置、健診等の産業保健活動の討議、定期健診受診率向上への対策推進。

後期(2002年-現在):定期健康診断の100%受診、保健指導実施率の向上、産業医との相談の充実。

## 産業保健活動の推移

定期健康診断受診率は表1に示す。正確な受診率は1995年からである。産業医活動を開始してから10年で定期健康診断受診率は100%を達成し、それ以降も継続している。定期健康診断項目別有所見率で

改善傾向が観察されたのは痩身度(男、女)、肥満度(男、女)、拡張期血圧(男)、尿蛋白(男、女)、尿糖(男、女)、HDLコレステロール(女)、GOT(男)、GPT(男、女)、HbA1c(男、女)、血糖値(男)、悪化傾向は総コレステロール(女)、 $\gamma$ -GTP(女)であった。産業医による保健指導実施率(2011年)は77.1%(108/140人)。

労災事故発生件数は減少傾向。

定期健康診断受診率100%達成と産業保健活動進展の要因

1. 産業医は粘り強く長期間の活動を継続すること
2. 医師としての信頼を得ること
3. 会社幹部に産業医を知ってもらい、産業医活動について認識を得ること
4. 会社幹部、特に経営責任者に産業医学(社員の健康管理)に対する理解能力のあること
5. 安全衛生委員会の整備と適切な運用を心掛けること
6. 産業保健活動の事務担当者への働きかけを重視すること

## 研究成果の活用(予定)

①千葉県医師会産業医研修会、千葉県医師会産業医部会での発表 ②船橋、東葛など千葉県各地区の医師会研修会での発表 ③日本産業衛生学会での発表 ④千葉産業保健推進センター研修会での活用 ⑤行政へ

